

## 「スポーツリエゾン京都ワーキンググループ」からの報告

## スポーツリエゾン京都ワーキンググループの進捗とモデル事業について

## 1. これまでの経緯とモデル事業の実施について

- ① スポーツリエゾン京都ワーキンググループでは、これまで2回の会議を実施（平成27年7月24日及び平成27年9月29日）し、今後の「スポーツリエゾン京都」のあり方について検討を行った。
- ② 会議では、スポーツイベントなどを通じて、スポーツ団体や、スポーツとは異なる分野の団体、地域団体・大学などが相互に情報を共有し、つながる（調整・協力・連携する）ことにより、活動の領域が広がり、また新たな効果を発揮することなどを明らかにするため、今年度に協働型のモデル事業を実施することとした。
- ③ モデル事業の実施結果をもとに、ワーキンググループにおいては、以下の点について検討する予定である。
  - ・スポーツリエゾン京都の中心となる組織のあり方と、それにふさわしい主体の検討
  - ・多様な主体による情報共有と各組織間の調整・協力・連携のよりよい方法の検討
  - ・スポーツボランティアの組織化と運営方法の検討  
（参考）京都市市民活動総合センター
  - ・今後の事業の検討

など

## 2. モデル事業の概要

- ①プロチーム；プロバスケットチーム「京都ハンナリーズ」
- ②実施日時；平成27年12月13日（日）
- ③実施場所；ハンナリーズアリーナ
- ④内容
  - ・「京都ハンナリーズ」の試合では、毎回多くのごみが出るため、スタッフだけでは対応が行き届かないところがある。そこで右京区のゴミ減量などに取り組む環境団体や地域団体と協力し、来場者のゴミ分別とゴミ減量への啓発に取り組む。
  - ・スポーツイベントでのボランティアによるゴミ分別活動について、仙台市の「エコシティ仙台プロデュースプロジェクト」がある。（別紙参照）
- ⑤協力・連携団体  
右京区の地域団体等（体育振興会、地域女性会、地域ゴミ減量推進会議、大学など）

## ※補足

## ○プロ団体に焦点を当てた理由

- ・振興計画（見直し）の団体ヒアリングで、3団体とも、地域との各種交流事業に力を入れており、今後も地域社会への貢献活動を充実、発展させたいと考えていることが分かった。団体自体が意欲的であり、また、プロの試合では必然的に人が集まるため、イベントを開催しやすい。

## ○プロ3団体の中で最初にハンナリーズとなった理由

- ・他の2チームはシーズン終盤であり、時期的に適しているのがハンナリーズであった。
- ・今回の事業（ボランティアによるごみの分別）を考えたときに、ハンナリーズが、一番会場規模が小さいので、最初のモデル事業として取りかかりやすい。  
（他のプロ2団体についても、今回のモデル事業実施後、同様の事業の実施を予定）